

「Good listener は good speaker!」・・・相手の考えや思いを正しく理解することに重点を置き、英語でコミュニケーションを楽しむ工夫をした英語活動の事例

学校名：大垣市立中川小学校

実施状況： 全学年において年間35時間の実施

1・2年生は「ゆとりの時間」を使い、週2回20分程度の英語活動

3年生以上は大垣市「わくわく英語特区」を受け、週45分間の教科英語
毎週2回、15分間の朝の活動を使って全校英語活動を実施

全校テレビ放送による児童参画の番組の視聴。ALT主導。

指導体制：学級担任とALT、VET（地域講師）による3人の指導者で指導

その他：文部省指定研究開発学校（H9～H11）

(1) 学校の教育目標 めあてをもって がんばりぬく 中川の子

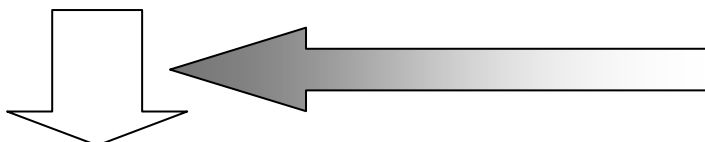
(2) 英語活動・英語を通して目指す姿

児童の姿のとりえ

- ・課題設定 活動途中でのアドバイス 評価の一貫を図り、常に目指す姿に立ち返って指導を重ねてきた結果、毎時間の学習課題をよく意識して授業に臨む児童が増えてきている。
- ・仲間と話すことを好み、自分の考えや思いを生き生きと伝えることができる児童が多い。
- ・少々聞き取ることができない部分があっても、おおまかな内容をつかもうとして英語の話を聞き続けようとする。しかし、内容を正しく把握することや、反応しながら話を聞くことに弱さが見られる。
- ・仲間とかかわり合う中で学びを深めていこうとする態度も、十分ではない。

英語活動
に期待する
役割

- ・一人一人の
コミュニ
ケーショ
ン能力を
高める。
- ・仲間ととも
に学び合
う児童を
育成する。



英語活動・英語を通して実現を願う児童の姿

目指す姿や学習課題と照らして自らの学びを見つめ、どんな力がついてきているのかを実感する姿。

相手の考えや思いを思いやりのある態度で受け止め、自分で決めたり考えたりしたことを相手に分かりやすく伝える姿。

互いによりよく分かり合うために、「分かる」・「分からない」という自分の意思を言葉や表情・ゼスチャーに表し、反応を示しながら聞く姿。

仲間とかかわり合って学びを深めたり、ともに学び合うことのよさを実感したりする姿。

(3) 評価の観点と評価規準(第4学年の第3学期)

中学年の目標:簡単な英語を用いて会話を楽しみ、まわりの仲間に進んでかかわることができる。

観点	コミュニケーションへの積極的な態度	話すこと	聞くこと
評価規準	誰とでも楽しくコミュニケーションをしようとする。	習った英語を用いて、事実や気持ちを伝え合うことができる。	相手の話す英語を聞いて、適切に反応することができる。
具体的な評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 誰とでも楽しくやりとりをする。 笑顔で活動する。 相手が困っていることに気付いて、声をかけたり教えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の目を見ながら話すことができる。 相手に分かるように、はっきり話すことができる。 その場にふさわしいジェスチャーを使いながら活動することができる。 習った英語を、進んで使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 類推しながら、集中して聞くことができる。 言葉や表情・ゼスチャーを用いて、反応することができる。 不確かなことは、分かるまで質問することができる。

(4) 指導方針(本年度の重点実践内容)

無理なく言語材料に慣れ親しむ方法の確立	個に応じた指導・援助の方法	環境設定の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に合わせた指導計画の見直し(ねらい・評価規準、モデル・スキットや語彙の見直し) 児童にとって、「学ぶ必然性」のある授業づくり(目標 指導 評価の一貫) 手を変え、品を変え、目先を変え、繰り返し練習し、自信を生み出す授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 確かな実態把握(「ふりかえりカード」,意識調査、パフォーマンス・テスト等の活用) 小集団(ペアやグループ)の効果的な活用 内容を明確にし、分担して行う三人の指導者による指導・援助の在り方 	<ul style="list-style-type: none"> 「学び合う」学習集団の育成(小集団を活用し,主体的に学ぶ場の設定、「学び合い」のよさを実感することができる評価の工夫) 楽しく英語に慣れ親しむための教材・教具や場の工夫

(5) 具体的実践
指導計画

第4学年	題材“What am I?”	指導時期 10月
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 何らかの生き物になりきって行う「仲間集めゲーム」や「生き物当てクイズ」を通して、その生き物が「できること」や色・好物についての情報を相手に分かりやすく伝えたり、相手が話す内容に対する「分かる」「分からない」の意思表示を言葉や表情・ゼスチャーで表す等、反応しながら聞いたりすることができる。 <p style="text-align: right;">全5時間</p>	
言語材料	<ul style="list-style-type: none"> 生き物が「できること」を伝える表現 I can jump.(run/walk/jump/fly/swim) 生き物が「できること」や色・好物について尋ねる表現 Can you jump? (Yes, I can./No, I can't.) What color?/Do you like ~ ? 	

	<ul style="list-style-type: none"> クイズの尋ね方・答え方 What am I?/I know./You are ~ ./That's right./I'm ~ ./ 生き物の名前 rabbit/dog/frog/bird/fish/kangaroo/mouse/lion/horse/whale/elephant/grasshopper/ mantis/butterfly
教材・教具	活動で使う言語材料を盛り込んだオリジナル・ソング、歌を覚えるのに役立つ絵図、生き物の絵カード、ペア練習で使用する生き物の絵カード、各コーナーで示すヒントの一覧表、出題者用ヒント・カード、ステッカーを集めるワークシート、生き物のステッカー、活動の雰囲気を出すかぶり物

時間	ねらい	主な活動内容・設定する場面等	主に扱う言語材料
1	<ul style="list-style-type: none"> 相手の目を見て、その生き物が「できること」について尋ねることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに円くなってすわり、「生き物の絵カード」を一人ずつ順に引き、「生き物当てクイズ」を出題していく。“Can you ~?”を使って、どんな生き物かを当てる。「生き物当てクイズ」を進める手順や定型表現を理解する。 	Can you ~?/Yes, I can./No, I can't./What am I?/I know. You are ~ ./That's right./I'm ~ .
2	<ul style="list-style-type: none"> ALT の話を類推しながら聞き、どんな生きもののか、見当をつけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> パノラマ・ピクチャーを見ながら ALT の話を聞いたり、問いかけに答えたりする。(生き物が「できること」・色・好物についての表現に着目して聞く。) より多くの生き物を扱い、「生き物当てクイズ」の事例を学ぶ。 	Can you ~? Yes, I can./ No, I can't.
3	<ul style="list-style-type: none"> 「できること」や色について、はっきりした声で尋ねることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> スクランブル形式で「仲間集めゲーム」を行い、「できること」・色について尋ね、どんな生き物のことを言っているのかを当て合う。 	What color are you?
4	<ul style="list-style-type: none"> 仲間に認め・励ましやアドバイスをしながら活動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> スクランブル形式で、「仲間集めゲーム」を行い、「できること」・好物について尋ね、どんな生き物のことを言っているのかを当て合う。 	Do you like ~ ?
5 本時	<ul style="list-style-type: none"> クイズの答えが分かるまで質問することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 出題者と回答者になり(前半・後半で交代)、「できること」色 好物の順に尋ね、どんな生き物のことを言っているのか当て合う。 	(既習の言葉を使って)

授業の特徴(本時あるいは本題材における活動を設定する上で工夫した点)

- ア クイズで使う定型表現を自信をもって話すことができるように、チャンツ練習の後も、「生き物の絵カード」を活用してのペア練習を行った。また、同じペアで継続して活動することにより、仲間の努力する姿を捉えやすくして、相互評価が深まるようにした。
- イ 各コーナーに「出題者用のヒント・カード」を5枚ずつ置き、出題する生き物を選ぶことができるようにすることで、進んで活動できるようにした。
- ウ 各コーナーに「ヒントの一覧表」を準備することで、どのクイズをどのような順に出せばよいのかを分かりやすくし、クイズのやりとりに集中できるようにした。

学習過程	主な活動		評価・指導・援助
	児童の活動	教師の指導・援助 (H R T , V E T , A L T)	
<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・歌 ・トピック ・課題提示 ・チャンツ 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする。 ・歌‘What am I?’を、動作を付けて歌う。 ・A L TやV E Tが出題する“What am I?”クイズを解く。 ・モデル・スキットを見て、本時の活動の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつに応える。 ・児童とともに歌う。 ・H R Tは児童に反応を求めたり、仲間への認め・励ましを促したりする。 ・「どのように反応していたか」に着目させ、反応しながら聞くことの大切さについて話す。 	<p>英語を視覚的に捉え、歌いやすいように、歌詞の絵図を示す。</p> <p>活動内容や重点項目等を板書に位置付けることで、どの児童も意識できるようにする。</p>
	<p>課題 相手の言葉をよく確かめて、生き物当てクイズをしよう。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・活動前半 ・アドバイス ・活動後半 	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズで使う定型表現をチャンツで復習する。 ・チャンツ練習の後、ペアでの教え合いを大切にしながら練習する。 ・出題者と回答者になって、各コーナーでクイズ活動を楽しむ。 ・課題が達成できようようにアドバイスを聞く。 ・出題者と回答者を交代し、各コーナーでクイズ活動を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A L TとV E Tが出題者と回答者の役割となり、リードする。 ・H R Tは児童に寄り添って練習の補助に当たる。 ・A L Tは「よい話し手」を育てる立場から、クイズを進める上での定型表現がはっきり言えるように模範を示す。 ・V E Tは「よい聞き手」を育てる立場から、クイズを解く側がどのように反応しながら聞くとよいのか自らの姿で例示する。 ・H R Tは「学級経営上」の立場から、仲間とうまくかわることができるように目指す姿を示す。 ・A L TやV E Tは目指す姿に近づいている児童の姿を取り上げ、後半の活動を方向付ける。 ・A L Tはクイズを進める上での定型表現がはっきり伝えることができていた児童を認める。 ・V E Tはクイズを解くために、よく考えて次の質問を選択していた児童を認める。 	<p>本時重点とする評価の観点「聞くこと」</p> <p>不確かなことを、分かるまで質問することができる。</p> <p>(クイズの答えが分かるまで質問することができる。)</p> <p>合い言葉“ Response ”</p> <p><よい聞き方の例></p> <p>具体的な姿で示し、イメージを全体で共有する。</p> <p>「分かる」 相手の言葉を繰り返す/“O.K.”・“I see.”などと言う。/うなずく。</p> <p>「分からない」 “Pardon?”/“Once more ,please.”/首をかしげる。</p> <p>ヒントが一つ一つ相手に伝わっているか確かめながらクイズを進めたり、出題者の返答を聞いて、よく考えて次の質問を選択したりしていたなど、具体的な児童の姿をコミュニケーション能力の素地として価値付け、今後の目指す姿として共有する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間のよさや仲間への感謝を伝え合う。 ・A L T・V E T・H R Tの話聞いて、本時の仲間のがんばりを認め合う。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ ‘ See you. ’ を歌い、あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H R T は仲間と学び合うことにより児童と、それを支えた児童を認める。 ・ 共に歌ったり、あいさつに応じたりする。 	
--	---	---	--

(6) 実践の検証

「英語の授業に対する意識調査」の結果から、児童が「できている」「どちらかと言えばできている」と自信を示している項目は次のものである。

項目	1 学期末	2 学期末
「自分から進んで友達に話しかける」	7 2 %	7 5 %
「英語を聞いて理解する」	6 7 %	8 1 %
「習った英語で言語活動を行う」	8 6 %	8 8 %

< 考察 >

については、言語材料の数や難易度に無理がないように、1 学期終了後に単元指導計画の見直しを図ったことや、中心活動に入る前の言語材料に慣れ親しむ指導過程を見直したことによって、自信をもって活動に臨む児童が増えた結果であると考えられる。

また、安易にリピートばかりさせることなく、学習過程に「学び合い」の場を位置付け、児童相互の教え合いによって「できるようになった。」という実感を生み出すように努めてきた結果、「学び合いのよさ」を実感する児童が増えてきたことによるものと考えられる。

については、Response を 2 学期の重点項目に設定し、「相手の考えや思いを正しく理解することや、自分の理解の程度を相手に示しながら話を聞くこと」や、自己選択の場を大切してきた結果であると捉えている。

については、指導計画上系統的に位置付けられた言語材料や言語活動を、手を変え、品を変え、目先を変え、あきさせることなく「変化のある繰り返し」の中で、活用する場を設けてきた結果であると捉えている。

< 成果と課題 >

成果として明らかになったこと

< 4 年生の児童にとって意味ある活動にするために大切なこと >

- ・ 言語活動に明確な活動目的がある。本実践では、「クイズを解く」という目的がある。
- ・ 定型表現が使える。本実践では、“ Can you ~ ? ” “ What color ~ ? ” “ Do you like ~ ? ” 等、定型表現が言語活動に直結しており、児童が定型表現を学ぶ必然性がある。
- ・ 児童の間に情報のギャップがある。このギャップにより、答えや内容を知っている児童と知らない児童との間にやりとりをする必然性が生まれる。
- ・ 自分で判断したり選択したりできる場がある。クイズを選ぶ場や、クイズを解くために尋ねる場がある。
- ・ 言語材料の数と量が適している。児童にとって身近な言葉や既習の言葉を繰り返し使う。適度抵抗の中で言語活動を行う心地よさがある。
- ・ 中心となる活動に入る前の「言語材料に慣れ親しむ過程」の指導を丁寧に行う。モデル・スキットを見る チャンツで練習する ペアのモデルを見る 試す 実演を見る 直前にポイントを確認する。

今後の実践の方向

- ・ 児童の成長の質の高まりを明らかにし、見直しをもって指導する。そのためには、本時目指すコミュニケーションの姿を、さらに具体的にイメージすることが必要である。
- ・ 上記の意識調査において、チャンツによる練習を好む児童の数が減少している。(1 学期末 2 1 %

2学期末17%)ペア練習が「練習のための練習」となり、児童の学ぶ意欲を分断することがあったと考えられる。「楽しみながら学ぶ」という原点を大切に、「無理なく言語材料に慣れ親しむことができる方法」をさらに追究する必要がある。

- ・「話すこと」を急いで行うのではなく、英語表現をよく耳に馴染ませてから話すことへ移行するように留意する。例えば、指導者がモデルを示すだけでなく、児童の代表がモデルを演じる場を設けるなど、スキットを聞く機会が多くなるように工夫する。

(7) 中学校における英語教育との連携

- ・「小・中学校における英語学習の学習過程」については、次のような対応関係を意識して授業を進めている。

< 小学校 >

導入 歌 トピック 課題設定

展開 チャンツ 中心活動

終末 ふりかえり

< 中学校 >

- ・ warm-up として
歌・トピック(ペアで話す活動も含む)
- ・ Oral interactive introduction
説明や対話からの課題設定

- ・ コミュニカティブな授業展開
- ・ 単元を貫く言語活動

- ・ 英語による相互評価・自己評価、教師からの評価

- ・「小学校で使用している教材」(歌、絵カード等)を、中学校でも積極的に導入している。
- ・「小学校で示している評価項目」を、「常に相互評価し合っていく項目」と「本時重点的に扱う項目」に整理して、中学校でも「評価の窓」として生かしている。
- ・「小中兼務教員」が6年生の授業に入り、「小6と中1のつなぎ」を意識した授業を行っている。

(8) 資料

単位時間の流れ

あいさつ

明るく大きい声でリードする。「がんばるぞ!」という雰囲気づくりをする。

歌

言語材料が歌詞に盛り込まれた歌や季節に合っている歌を歌う。単なるウォーム・アップではなく、無理なく言語材料に慣れ親しむ方法の一つとして考えている。

Today's Topic

ALTやVETの英語を聞いて、大まかな内容をつかむ力をつける。

Today's aim

「今日はどんな活動をするのか」や「重点項目は何か」をつかみ、活動の見通しをもつ。

Let's chant

音楽やリズムにのりながら、中心となる活動で使う定型表現を覚える。スキットの内容に合わせて、役割に分かれて練習する。列で分けられたり、男女で分けられたりして、無理なく楽しく行う。

(例)“What am I?”の場合

VET 出題コーナー(staff)	ALT 回答者(guest)
Hello. What am I?	Hello. Can you run?(3つ以上聞く)

Yes, I can. I'm brown. I'm brown. Yes, I do. Yes. That's right. I'm a lion. Great.	What color are you? Pardon? Brown . I see. Do you like meat? I know. You are a lion. Thank you.
--	--

Let's try

活動を楽しみながら、仲間のよさを見つける。

・アドバイスタイム(スイッチ タイム)

前半の反省点が後半の活動の質の向上につながるように、アドバイスする。

Today's treasure

仲間のよさを認め合う大切な時間である。リズムカルに行う。指導者は、同じ児童ばかりが認められることを避け、多くの児童がほめられるように留意する。補助簿を活用する。

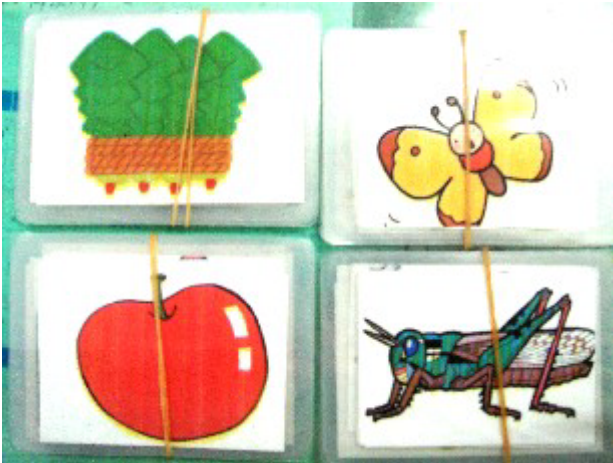
Let's say "Good bye"

「やり遂げた喜び」を歌や言葉で表す。ALTやVETとハイ・タッチを交わし、満ち足りた気分で一時間を終える。

活動で使用した具体的教具・教材、授業の様子を伝える写真 等

【「ペア練習」で使用する生き物の絵カード】

【各コーナーで示すヒントの一覧表】



【出題者用のカード】

【ステッカーを集めるためワークシート】

